

今程は3名の意見発表がありました。それぞれ、思いと考えがはっきりと伝わっていると同時に、意気込みも感じられ、とても素敵だったです。

2学期は、体育大会や学習発表会等の学校行事、生徒会の活動、部活動、そして学習等、本当に忙しい日々だったと思います。でも生徒の皆さんは、他人をきびしくとがめず、素直に対応する寛容の心で接してくれました。このおかげもあり、たまにふざけやからかいもありますが、現在はいじめの認知を0（ゼロ）と捉えるなど、いじめを生まない学校風土ができており、徳を積む学校を目指している私にとって本当にうれしい限りです。

さて、明日から、冬休みに入りますが、私からのお願いを1つお話します。それは「世のため、人のためになる夢をもち、実現に向けての人間力を高めて欲しい」ということです。「人の役にたつ仕事につきたい」「東京オリンピック選手のように、勇気と感動を与えたい」などの夢が、徐々に「世のため」という使命に近づくとき、満足感が大きくなり、そして、世のため人のために、大切な何かを成し遂げるために、この世に生を受け、自分は周りに生かされて生きているということを実感できれば、人生はより面白くなると思います。夢を実現するために、新年の抱負として、元旦には、今年は何をするのか、今日は何をするのかを、しっかりと考え、決まったら即具体的な行動に移してください。

この夢実現については、スターバックスコーヒージャパンの最高経営者であった岩田松雄氏が、その著書「君を成功に導く49の言葉」の中で次のように語られています。会社で5年後も部下の人は「人生に夢を持たず、目の前のことをこなすのに精一杯」とか「周りに対して、現状の不満ばかり言っている」とか「夢がないから日々流され、新しいことへのチャレンジを、始めからあきらめてしまっている。」では5年後のリーダーは、「世のため、人のためという大きな夢を持っている。」とか「その夢の達成のために、あらゆる努力をしよう」と覚悟している。」とか「夢の達成を信じているから、努力が続けられる」だそうです。「夢なき者は理想なし。理想なき者は信念なし。信念なき者は計画なし。計画なき者は実行なし。実行なき者は成果なし。成果なき者は幸福なし。ゆえに幸福を求むる者は夢なかるべからず。」とは、明治から昭和にかけて何百という会社を設立するなど、日本の資本主義の父と呼ばれ、2024年の新1万円札の顔となる渋沢栄一氏の名言「夢七（しち）訓」です。自分の夢や志を人前でも堂々語れるような心の強さと、道徳性の高まりから柔軟な思考ができるしなやかさが身につくことを願っています。

終わりに2点。

1点目は、3年生の皆さん。進路希望を叶える上で、冬休みは最大のチャンスと言っても過言ではありません。ここを乗り越えることで、春に大輪の花が咲きます。受験勉強に

とことん打ち込んでください。1、2年生の皆さん。4月からの新学年を意識しつつ、メディアと上手に付き合いながら、学習時間を一層伸ばしましょう。

もう1点は、新型コロナ感染予防の徹底に努めること。医師や看護師等、医療の最前線に立つ方々は、緊張と強い使命感のもとで仕事に毎日従事しておられます。私たちは「うつさない」の心から、検温やマスクの着用、社会的距離の確保等を行うことが大切ではありますが、これらはルールやきまりと叫ぶのではなく、モラルの面から当たり前のことと自然に受け止めたいものです。

それでは皆さん。3学期始業式では元気に会えることを楽しみとして、私の式辞とします。よいお年をお迎えください。終わります。